

## 45. にんじん

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	
19	ポリオキシシナール水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	キノンドーフロアブル	散布	収穫3日前まで	5回以内	
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
31	スターナ水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫7日前まで	5回以内	
M7	バルコート水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	マラソン乳剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
3	ペイオフME液剤	散布	収穫14日前まで	1回	
1	ランネート45DF	散布	収穫前日まで	2回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

—野菜類—

病虫害名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病虫害名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根頭 がんしゅ病 (B)	生 育 期 間	1. 発生地では連作しない。 2. 被害根は集めて焼却するか、ほ場外に埋設する。	1. 著しい被害株でないと地上部に異常は現れない。
黒 葉 枯 病 (F)	6 月 ~ 9 月	1. ポリオキシシ AL 水和剤、又は Z ボルドー 500 倍液を発病初期から 10 日おきに散布する。 [参考農薬] 1. ベルクート水和剤 500~1,000 倍液、キノンドーフロアブル 600~800 倍液、コサイド 3000、ダコニール 1000 の 1,000 倍液、ロブラール水和剤 1,000~1,500 倍液、ストロビーフロアブル 2,000~3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 短根種は弱い。 2. 銅水和剤は高温条件下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。炭酸カルシウム水和剤 (クレフノン) 100~200 倍液を加用すると、薬害を軽減できる。 3. ベルクートは蚕毒に注意する。 4. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
軟 腐 病 (B)	6 月 ~ 9 月	[参考農薬] 1. ジーファイン水和剤、又はスターナ水和剤の 1,000 倍液を散布する。	1. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがあるので注意する。
ネコブ センチュウ ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
ヨトウムシ (ヨトウガ)	8 月上旬 ~ 9 月下旬	[参考農薬] 1. ランネート 45 DF の 1,000 倍液、アグロスリン乳剤、ペイオフ ME 液剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. ランネート DF は吸入毒性が強いので、散布する時は必ずマスクを着用する他、風向きなどに注意し、噴霧を吸入しない。 2. アグロスリン、ペイオフ ME は蚕毒及び魚毒に特に注意する (特別指導事項 参照)。
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	生育中期まで	1. マラソン乳剤 2,000 倍液を散布する。	